

令和2年度 第1回 宇都宮市自転車のまち推進協議会

日時 令和2年7月27日（月）午後4時から午後5時30分

場所 宇都宮市役所14大会議室

出席者 別紙名簿参照

内容 1 開会

2 挨拶

3 議事

(1)「(仮称)第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」の策定について

(2)「(仮称)第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」策定に向けた検討の方向性について

4 その他

5 閉会

【主な発言・意見】

議事

委員

- ・ これまで市では自転車走行空間整備を進めているようだが、それでも学生のみならず一般の方への自転車マナーの周知が不十分なので、人が集まる出張所などにポスター等を掲載してはどうか。

→ 会長

- ・ 自転車交通マナーについては交通安全審議会でも議論している。学生や高齢者の事故が多く、これから利用が増えることを考えると交通安全はより大きな課題となる。この会議の中でもマナー改善について議論し、今回の計画にどう位置付けるかが重要になるだろう。

委員

- ・ 工業団地立地企業において従業員の自転車通勤が進んでいないのは何が原因と考えているか。
- ・ 「LRT停留場付近への駐輪場設置に向けて、民間事業者との連携を図りつつ段階的に進める」とあるが、どういった民間事業者を想定しているのか。また、段階的と言いつつも、LRT開業時までには使い勝手の良い状態に整備されていなければ意味がないと思われる。後期計画におけるLRT停留場周辺の駐輪場については、「段階的に官民連携による整備を行う」といった表現であり、位置づけが弱いと感じている。
- ・ 特に、ゆいの杜周辺の停留場は徒歩圏だけでなく自転車利用者も見込めるので、駐輪場を整備してもらいたい。
- ・ 清原工業団地北停留場は、東京近辺からLRTを利用して清原工業団地の企業に訪問する方の交通手段になるので、レンタサイクルを含め、つながりを意識して駐輪場を整備してもらいたい。

→ 事務局

- ・ 自転車通勤が進まない背景としては、「バス停が会社から遠い」「駐輪場が少ない」といった環境から、車以外の交通手段が存在しないことが考えられる。特に工場では夜間勤務のため、車での通勤にならざるを得ないといった声もあった。
- ・ また、自転車での通勤は10km以上離れた地域からは難しいことが考えられる。市外から通勤されている方も一定数存在することも一因と考えられる。
- ・ LRT停留場の駐輪場整備については、関係部署と調整・検討を進めている。次回以降の協議会であらためてご説明させていただき、意見を頂戴したい。

→ 会長

- ・ LRT開業のタイミングなど時間軸を考慮し、いつまでに誰がやるのかを公共も民間も含めて、計画の中で検討してもらいたい。

委員

- ・ 市民満足度が低く、事業が市民に伝わっていないのが気になる。
第2次推進計画策定にあたっては、ここにもスポットを当てた論議をしたい。
- ・ 市民満足度を上げるための提案として、ショートサイクルマップを作成してはどうか。現状の自転車マップは広域が多く、初心者にはハードルが高い。各地区センターを起点とし、地域の史跡を巡るウォーキングマップが既に作成されている。このように短い距離で走れるショートサイクルマップを作成し、各地区センター単位でイベントを実施するのはどうか。

→ 会長

- ・ 満足度について、そもそも事業が市民に周知されていないことが考えられる。計画の中で、いかに市民にPRし、事業の周知・理解を高めるか考えて欲しい。
- ・ 現状のマップはロードバイク利用者等に向けた内容になっており、敷居が高く感じる。ポタリング向けのショートサイクルマップなども必要かもしれない。

委員

- ・ 宇都宮市は走行空間整備など進められているが、それにも関わらず自転車の事故が増えている。どういった自転車事故が多いのか教えてほしい。
- ・ 今後10年の計画となるので、公共交通との連携だけでなく、自動運転を始めとした小型モビリティの導入による連携も検討してはどうか。
- ・ 国・県の計画との整合を図るとあるが、今年度で国の現行計画の計画期間が満了となるため、国の改定が進められるところであるので、それら最新の動きを視野に入れながら検討を進めてほしい。

→ 事務局

- ・ 歩行者など関係しないような自転車単独の事故が多いと、所管の警察署から聞いている。

→ 会長

- ・ 単独事故が道路の整備状況によるものなのか、高齢者の事故なのかなど、様々な要因があると思うが、細かく調べてみた方が良いように思う。

- ・ 新しいモビリティ（マイクロモビリティ）について、電動キックボードが海外では流行しているなどの動きがある。自転車だけでなく、そういったモビリティについても考えていく必要がある。
- ・ 宇都宮市は自転車先進都市であったが、近年は他自治体でも関連の取組みが活発になっている。国の計画見直しの動きとの連携も視野に、新しく出来上がる計画をどう合わせていくか、うまくいけば新しい改定計画とタイミングが合うかもしれない。

アドバイザー

- ・ 事業が市民に伝わっていない、市民満足度が低いのは、計画内容が体系、すなわち、ストーリーを必要としているからだと思われる。計画を策定するにあたっては、ストーリー立ててみると市民へ計画の内容を分かりやすく伝えられるのではないか。他の自治体では、中高生の自転車通学の事故が全国に比較しても多いので、自転車通学の安全対策に重点を置いたものや、通勤時の自家用車通勤が地域に渋滞を発生させているので、通勤をクルマから自転車にできる人だけでも転換させることで自家用車通勤のクルマが減ることを目指す渋滞対策に重点を置いたもの、通勤における自転車利用を促すことを軸に置いたものもある。ストーリーがあれば、わかりやすくなり、また、メリハリをつけることができている。

→ 会長

- ・ 多岐にわたって全てをこなそうとするだけでなく、目玉となる施策をつくって、重点的に進める施策を考えてはどうか。

会長

- ・ まだ多くの方にご発言をいただいていない状況であるが、どうするか。

→ 事務局

- ・ 後日、ご意見・ご質問があれば個別に対応していきたい。

その他

- ・ 本会議の内容は議事録を作成し、参加者の皆様に確認を頂いたうえで公表を行う。
- ・ また、次回の協議会開催については9月下旬を予定している。